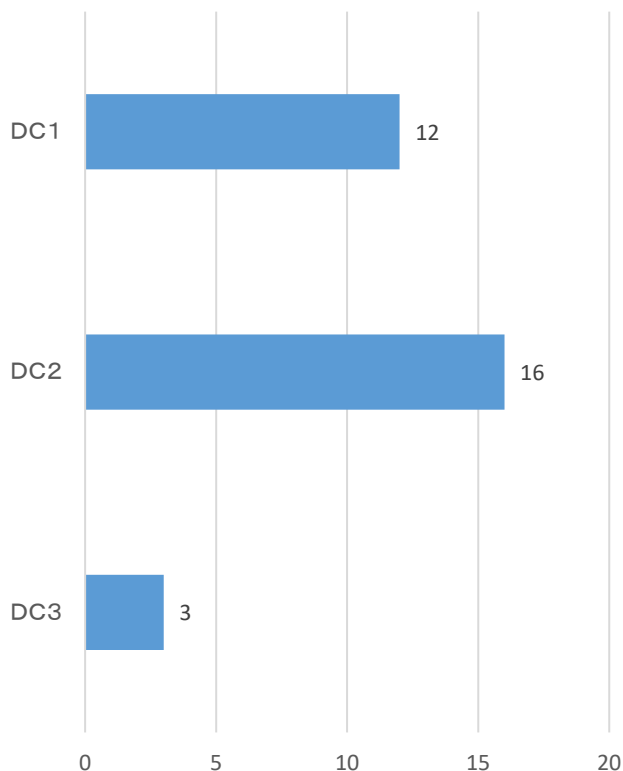


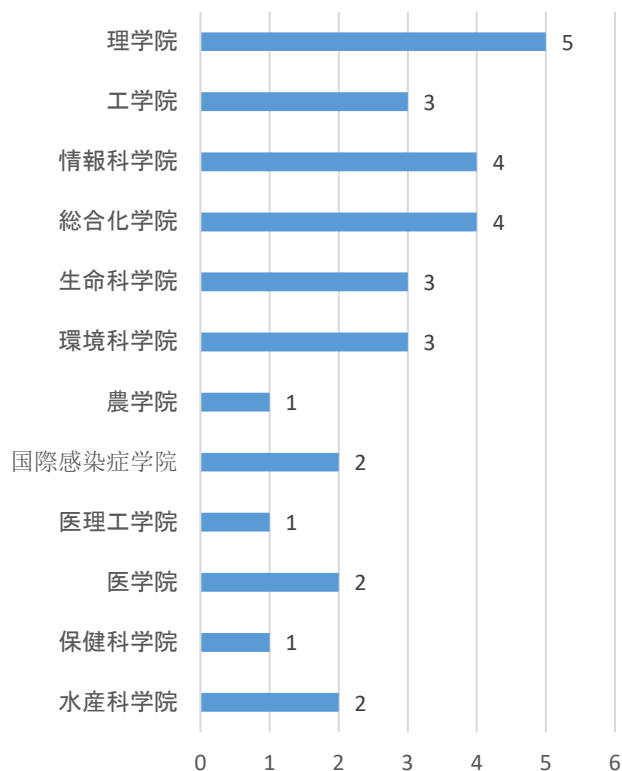
第62回（R8第2回）赤い糸会 アンケート

[1] 回答者：博士人材29名（※うち19名分掲載）
企業22名（参加者：博士人材31名・企業15社）

博士人材学年

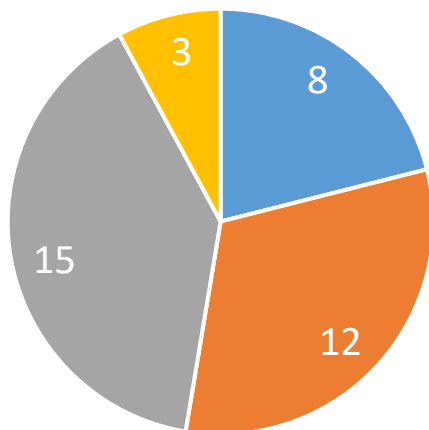


博士人材所属



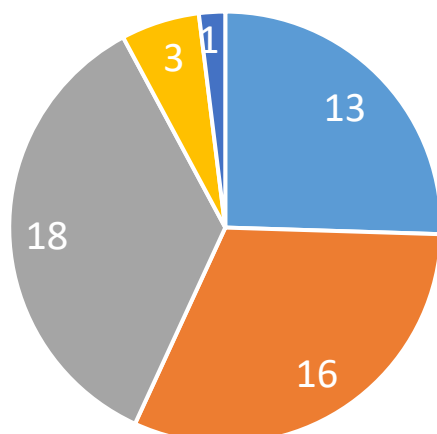
[2] 博士人材ポスター発表（複数回答可）

アピールできた点（博士人材）



- 1.プレゼン技法
- 2.専門性
- 3.人物・個性・特徴
- 4.ポスターのデザイン・レイアウト

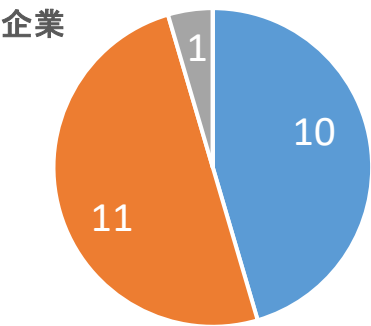
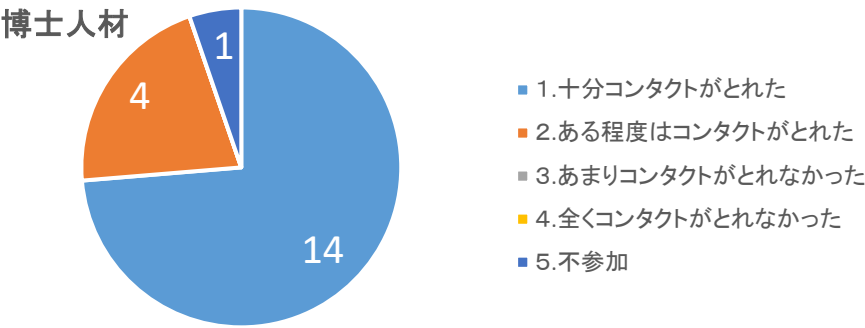
注目する点（企業）



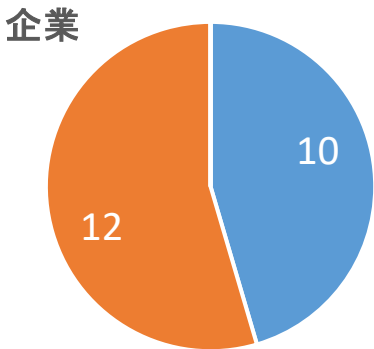
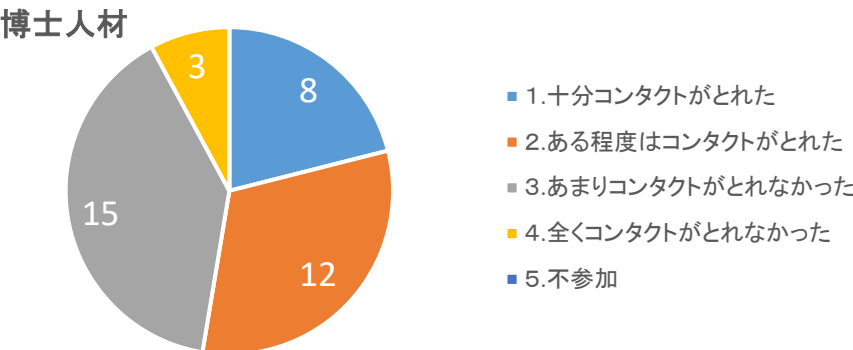
- 1.プレゼン技法
- 2.専門性
- 3.人物・個性・特技
- 4.ポスターのデザイン・レイアウト
- その他...

[3] 企業／博士人材とコンタクトがとれましたか？

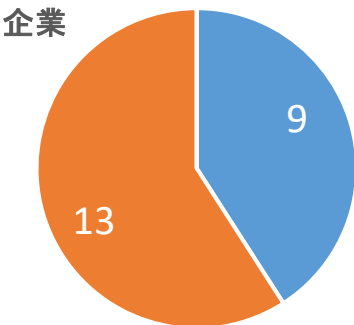
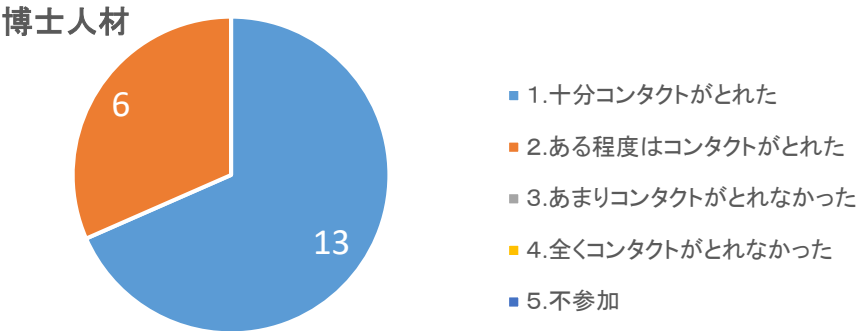
■昼食会でのコンタクトについて



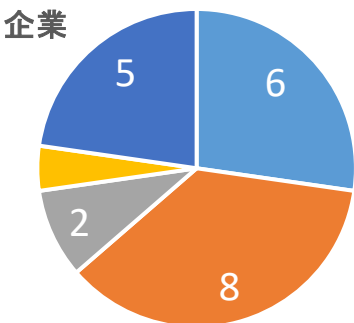
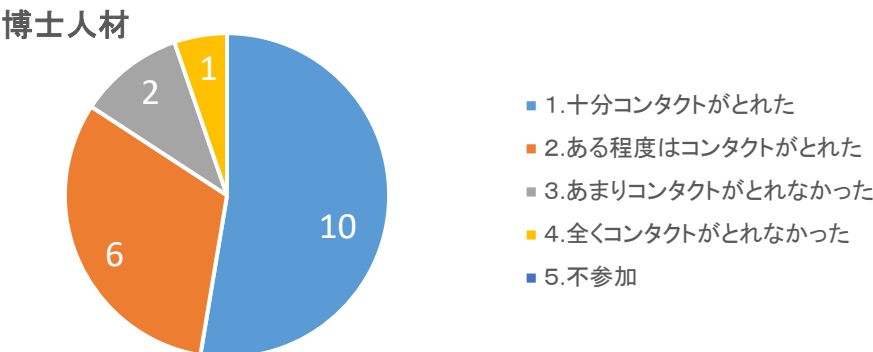
■ポスター発表でのコンタクトについて



■企業ブースでのコンタクトについて



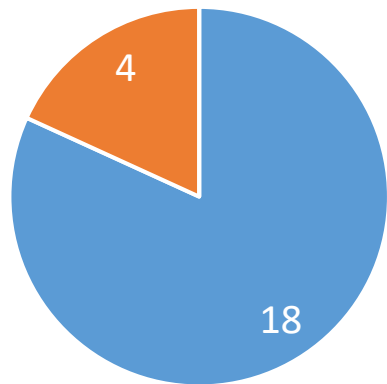
■情報交換交流会（懇親会）でのコンタクトについて



企業の皆様が話し掛け易いが、気になる企業のブースを回り切れなかった
どの方も非常に優しく、話しかけやすかった。
ポスターや企業ブースでお話しできなかった会社とも、後から交流会でお話しすることができ大変充実していた
必要最低限自分がコンタクトしたい企業様とはお話しすることができて良かった
昼食からポスターセッション、ブースでの交流、懇親会とさまざまな距離感でいろいろな企業と交流出来、今後のキャリアパスのイメージの具体化につながった。
ポスターや企業ブースなどにおいて、話の長い企業の方や雑談ベースの方だと、どこで話を切り上げていいのかわからず、コンタクトを取りたい企業を逃すことが多かった。
ポスター発表において声かけが半分、来ていただけたのが半分でした。 皆様研究内容にご興味を持っていただき大変恐縮でした。
機会がたくさんあり、希望していた企業以外にも話せたのが良かった
企業の皆さまはどのような方でも、真剣にポスター発表を聞いてくださったり、質問に答えてくださったりしたので、とても交流しやすく感じました。
かなり密接に企業の方と会話することができた
前回と比べてコンタクトを取ることができてよかった。 複数回参加することで将来のビジョンを言語化する力が伸びた気がする。
お互いに、参加目的をもう少し明確化した状態でコンタクトをとる形でも良いかもしれないと思いました。

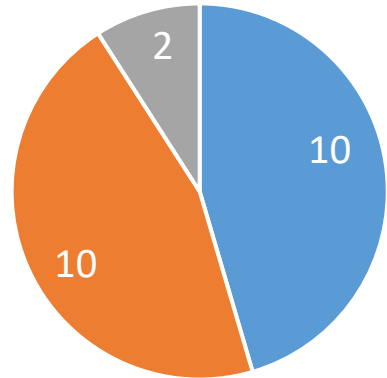
[4] 企業のみ

参加博士人材について



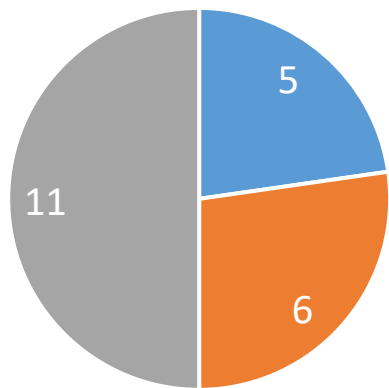
- 1. 欲しい分野の博士人材に会えた
- 2. 意外な分野の博士人材に出会えた
- 3. どちらでもない

参加博士人材に対する今後の対応をお聞かせください



- 1. 採用したい博士人材がいたので、今後交渉を進めたい
- 2. 採用については未定だが、今後もコンタクトを取りたい博士人材がいた
- 3. コンタクトを取りたい博士人材はいない

DC・PDのインターンシップ(1ヵ月位)について

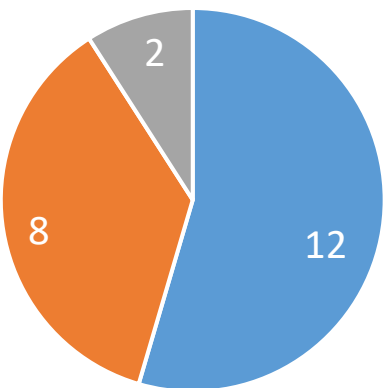


- 1. 受け入れを表明している
- 2. 受け入れてもよい
- 3. 受け入れは難しい

「3.受け入れは難しい」を選択された方：
差し支えなければ、理由をお教えてください。

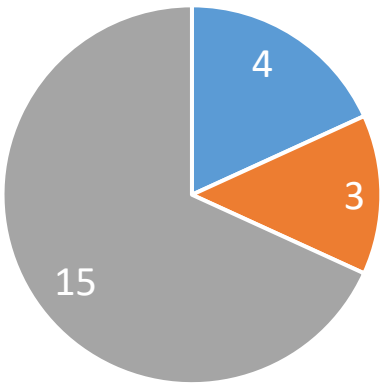
まだ制度が出来ていない
現状インターンシップを予定していないため
研究系の1ヶ月程度のインターンシップは、本年度については既に実施中で実施が難しいですが、来年度は実施予定です。
1か月間を対応できる人材がいない。
入社前の方に対して、内部のお客様情報（生徒・保護者の個人情報）を開示してしまうことは社内的に避けたいところです。
これまで当社にて長期のインターンシップの実施実績がないため難しいのではないかと存じます。
受け入れてもよいが、分野を限定して受け入れたい（機械系・電気電子系のみ）。
インターンシップを開催していないため

DC採用について



- 1. 定期的に採用したい
- 2. 時期に関わらず、採用したい
- 3. 採用については未定

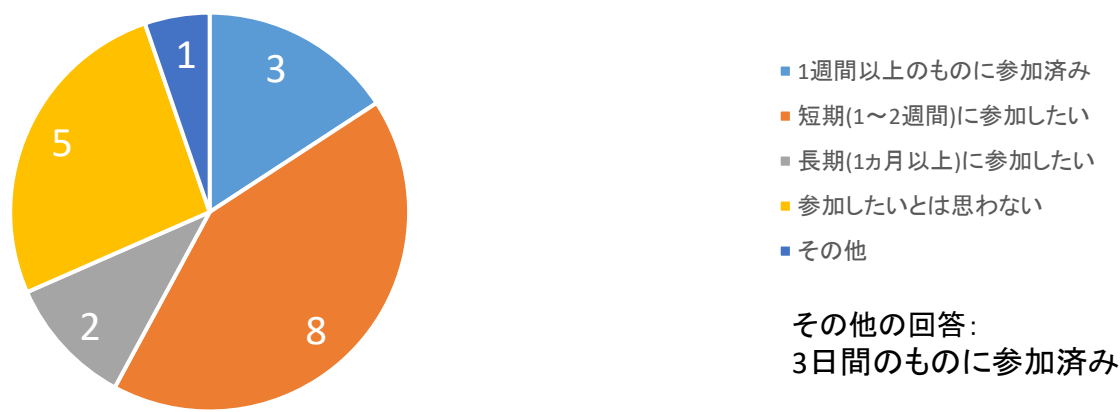
文系博士の採用について



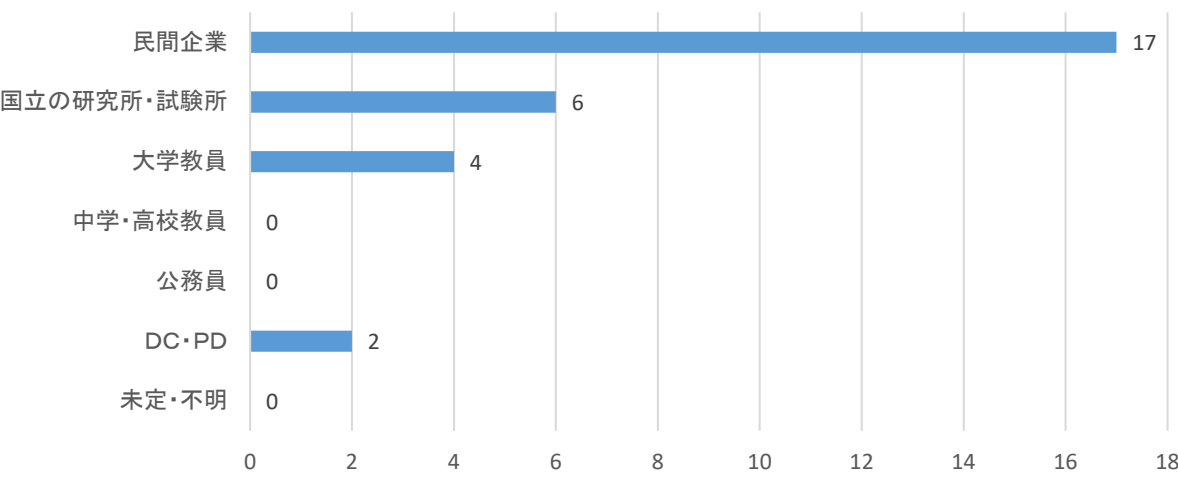
- 1. 文系博士を採用している
- 2. 文系博士の採用を検討している
- 3. 文系博士の採用については未定

[5] 博士人材のみ

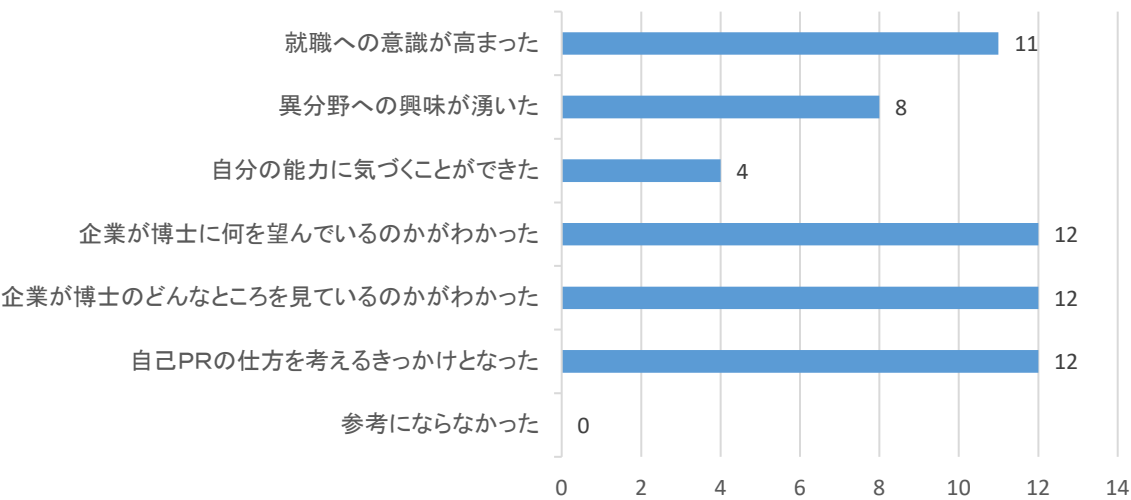
本会参加の企業に限らず、インターンシップに参加したいと思いますか。



あなたは、今後のキャリアパスをどのように考えていますか？（複数回答可）



「赤い糸会」は、進路決定の参考になりましたか？（複数回答可）



[6] 「赤い糸会」に参加して新たな気づきはありましたか。
それはどのようなことですか。（博士人材のみ）

1	企業に働く人々の考え方がより詳しくなりました。
2	b to bの会社は、実際に話掛けないと仕事のやり方やビジネスを深く理解できません
3	専門にこだわらず、どのような形の仕事をしたいかを明確にしておくと話がスムーズに進むと思った。 企業の方は専門性だけではなく、仕事や将来像への姿勢や取り組みを重視していると感じた。 専門が違ったとしても伝え方次第で可能性は広がると思った。
4	自分の専門が活かせそうと思ってた会社がそうではなかったり、逆もあった。 密な交流ができたおかげだと思います。
5	どの企業も新規事業を社全体として推進していく気概が感じられ、社会全体そして博士人材に対してもそれを成し遂げる力が求められているということ。
6	アカデミア、インダストリーを問わず、就職先で働くことによりどのように社会へ貢献できるか、などの 簡単で考えるという新たな価値を教えてもらった。
7	専門外の人に研究などをどのような熱量で伝えればいいのか、人間性やキャラクターをどのように アピールしたらいいのかを考えるきっかけになった。
8	会社ごとに研究に対する考え方・アプローチ方法が異なることが分かった。
9	私の研究プロセスは、「製造の設計」と似ているというアドバイスを複数の企業様よりいただきました。 確かに、自分の強みは計算デバイスに合うように、数学的なアプローチでアルゴリズムそのものを再 設計することが強みであることを再認識できたので非常によい時間となりました。 今後の就活でこの強みは活かしていきたいと思います。
10	専門性以上に論理的思考力を見ているということ、実際に仰っていたこと
11	本選考に臨む際には「自分がどのような事業とマッチしていて、何を実現したいのか」を明確にしておく 必要があると思いますが、その明確にするための手段がインターンシップや企業内のイベントである、 ということをもっと知りました。以前までは、何となく経験を積むためや、早期に企業へアピールする ため等、少し的外れな意識を持っていました。
12	企業が求めている人材を明確に把握したうえで就活する必要があること
13	こういうイベントでのマッチングなどがかなり重要になってくること
14	分野が違う企業にも少し興味が湧いた。
15	企業側は思ったより研究内容の専門性を重視することです。
16	話を聞いてみると、自分の専門と異なる事業をしている会社でも働くことができる可能性もあることが 分かった。
17	どの企業も異分野に対して積極的に研究を遂行できることを重視していることがよくわかった。 これからの自身の研究内容やスキルをどうアピールすればいいかがわかった。
18	企業研究者とはどのような人たちなのか知れた。
19	企業の温度感のようなものを知ることができた。

[7] 今後、博士人材へ期待すること・要望など（企業のみ）

1	論理的思考
2	現在の専攻に限らず、企業研修者についても柔軟に理解を進めてほしい。
3	人間性が優れていること（謙虚さなど）
4	かなり素直で実直な方々ばかりの印象でした。今後も変わらずいていただけると幸いです。
5	会社見学会へ参加して欲しい
6	プログラミングやAIスキルは今のうちに磨いておくのが良いと思う
7	専門性や研究力、そして、課題を見つけ出す能力に期待しています。 国際的な競争が激化する各市場、事業で先頭を引っ張っていく人材になってほしいです。
8	まずは、大学院での研究を通じて培った専門性をさらに磨き、自分ならではの強みとして確立してほしいと思います。そのうえで、将来どのような人生を歩み、どのような仕事に取り組みたいのかというビジョンを明確にし、その実現に向けて主体的かつ積極的に行動してほしいです。
9	専門性を磨きつつ、そこにこだわらない柔軟性を併せ持つてほしい。
10	多様な企業と交流して対話するとともに、現地を訪問して五感で体験してきて実態を掴むというような、普段、研究活動で行っている対象をしっかりとらえ問いを立てて仮説検証していくことで、本当に自分がやりたいこと・成し遂げたいことが分かり、自然とどのようなキャリアが良いか見えてくるのではないかと思います。
11	専門性および研究活動で培った力を発揮していただきたい。 日本製鉄個別事情でいえば、特別研究員制度について知っていただきたい。
12	今回のように密にコミュニケーションをとれる会は非常にありがたいです。
13	今年度は、ポスター発表時にご自身のところに呼び込む方が多く、企業側としても大変好ましいと感じました。ぜひ今後もお願いしたいと考えております。
14	専門性を高めつつ、こだわりなく、様々な経験をしてほしい
15	専門性を深めていただくことは重要ですが、専門以外の分野にも幅広く興味を持っていただき、必要とあればそれにチャレンジする想いを持っていただきたい。
16	一見自分の専門と関係がなさそうに見える会社でも、何か自分の知識・経験が活かせないかを考える習慣をつけるとよいと思います。※今回の参加者がそれをできていなかったという意味ではありません。
17	社会に出ると、会社で誰もやったことのないことや解決のために何から始めたらいいかわからないことがたくさんあります。博士人材には、課題を発見し、主体的に自分で考えて行動し、周囲に相談しながら周囲の人を巻き込んで、重要課題を解決していく力を身に付けてほしいと考えます。また、この会社では誰にも負けない、という専門性の柱は重要で、身に付けて欲しいと思いますが、専門性にこだわりすぎてその分野しかやりたくない、という方は活躍できません。「私は好奇心旺盛で、なんでもチャレンジしたいです！」とアピールしてくる博士の方は多いですが、本当でしょうか？好きなことだけに興味があるのではないのでしょうか？会社では、上司の承認を得るために資料や申請書を作成したり、他部署と調整したり、地道に調査や勉強をしたり、面倒ですが必要なことはたくさんあります。そういう仕事や勉強を避ける社員もおりますが、結局は、「絶対にこの仕事で成果を出す、そのためにはどんな面倒で大変なことでもやり切る」という熱意・覚悟・継続性・粘り強さを持って取り組める人が成果を出し、評価されると思います。専門性やスキルは二の次なのかなと思います。熱意などは生まれつきの性格によるものも大きいと思いますが、学生の皆様をご指導いただければと思います。
18	このように実際に対面でお話し、インダストリーでの活躍を想像してもらえるような機会を増やしていきたい。
19	専門性を社会実装へとつなげ、新たなテクノロジーや知識・概念を富士通のビジネスにタイムリーに取り込み、社会や顧客の課題解決につながる価値を創出いただけることを期待しています。
20	金融業界を含め、幅広い業界に関心をもっていただくこと

[8] 全体を通して、「赤い糸会」についての意見、要望など

博士人材

1	企業との交流する機会が限られているから、より多く開催されたら嬉しい
2	関連性より高い企業を望みます
3	企業の人事や研究員の方と直接お話できる機会はなかなか無いので非常に有意義な時間だった。
4	非常に充実していて楽しい会でした！ 交流会は北大らしくジンパとかでも面白そうですね。自分が卒業生だったら行きたいだろうなと思います。
5	非常に素晴らしい。このような環境があることは、多くの北大生に知ってほしい。（広報を頑張ってください。私も力の限り周りに広めます。）また、名刺を有料でも良いので作成補助・印刷するサポートがあると良いと思った。
6	参加者数や企業数などの関係もあり仕方ない面もあるかと思いますが、もう少し時間的なゆとりがあるといいなと思いました。
7	ポスターセッションにおいて、企業の方から研究に対する質問がほとんどで、自分が博士進学した理由や今後のキャリアをどう考えているか等、自分の人となりに関する質問がされなかったのが、なんでもかな？と思っていたし、聞いてほしいな、と思っていた。（私の話の振り方もよくなかったのかもしれないが...）
8	いい機会でした。特にありません
9	些細なことで恐縮ですが、企業ブース交流会の際、プロジェクターでの表示が少し眩しく感じました。 光源から投影面までの距離が近いのかもかもしれません。
10	とても充実した時間でした、形式を無理に変える必要はないと思います
11	これからもつづけてほしい
12	進行がスムーズで良かった。拘束時間が長く感じた。
13	ポスターセッションでは、企業ブースセッションと同じくしっかりと制限時間を決めて、みんな一緒に移動して欲しいです。実際に懇親会で企業の人との話でも、人それぞれの時間が異なると、多くの話しかった博士に話せなかったことで残念でした。
14	博士課程の学生を採用したいということが分かっている企業の方に直接自分を売り込むことができてよかったです 開催いただきありがとうございました。
15	企業の発表順を業界ごとに区切ったらよいかと感じた。
16	就活への意識が高まる会で、非常にためになりました

企業

1	案内から当日の進行まで素晴らしい対応でした。ありがとうございました。
2	他のイベントと比較して参加者の皆さんのお人柄が良くとても有意義でした。
3	誰にでもわかりやすく伝えるということをし、しっかりと練習されていたのかどのプレゼンについてもどういう工夫をしてどこに苦労したのかが見えやすいものでした。 人物面を重要視しておりますので、その点が見えやすいのは大変ありがたかったです。
4	学生への指導があり、コミュニケーション取りやすい
5	ポスターも10分おきに区切る方が会いたい学生に会えるか。懇親会も時間を区切って強制シャッフルにしないと学生も次のテーブルに行きづらそうだった
6	学生さんが、積極的に質問をして頂けるなど、交流の濃度が高く感じました。今後、弊社に関心がある方々と交流を続けて行きたいと思えます。課題となるのは、弊社のインターンシップやオープンカンパニー等のイベントが9月で終了してしまっているため、より深く会社を知って頂く機会が減ることです。

7	イベント全体として、各プログラムの時間間隔がやや短いと感じました。一方で、以前「あえてこの程度の短い時間設定にしている」と伺っていたため、運営側の意図は実現されていたように思います。 また、ポスター発表については、話を聞きたい学生全員の発表を聞くことができませんでした(120分で7-8名)。企業ブースのように、学生ポスターについても一回あたり10分程度の時間設定を設け、一定時間毎に交代させるしくみがあると、より多くの学生と交流できるのではないかと感じました。 今後も、このような企業と学生を繋ぐマッチングイベントは開催してほしいと感じました。
8	企業ブース訪問の時間(20分/回)が短すぎる。もう少し長く(30~40分/回)してほしい。
9	とてもよく準備されている交流会で、とても素晴らしい形で学生と交流することができました。ありがとうございます。 今後もご継続いただければ幸いです。
10	しっかり準備されていることもあってか、学生さんの積極性が学年にかかわらず非常に高かったことが印象的でした。 今後弊社にコンタクトしたいがコンタクトの手段がない...という学生さんがいらっしゃいましたら繋いでいただけますと幸いです。
11	とても有意義なイベントであったと感じております。ご参加させていただきありがとうございます。
12	企業ブース交流では必ず学生と交流を持つことができるシステムであるため、企業側としては大変ありがたいと感じております。
13	大変お世話になりありがとうございました。
14	It was a well organized event and helped to identify talent
15	「赤い糸会」経由で入社した人材は、みな入社後も非常に活躍しており、今後も引き続き参加させていただきたい。
16	弊社はどうしても社名などで業務内容について先入観を持たれやすいので、こうしたイベントで学生に直接かつ詳しく「我が社ではあなたが思っているよりずっと多様な分野の人材が活躍できる」ということをお伝えできるのは非常に貴重な機会であると感じています。
17	運営は非常にスムーズで、ストレスを感じることなく、博士学生と交流できました。ありがとうございました。やはり対面で博士学生と話をできるのが一番よく、予算の関係もあるとは思いますが、オンラインイベントではなく、対面での博士学生との交流の機会を継続いただけますとありがたいです。来年も対面での赤い糸会参加を希望します。 修士や学士の学生は大学主催の対面のマッチングイベントに参加してくれないと思いますので、その層にはイベントを行う必要はないと考えます。
18	開始早々ごろに空いている学生がいるため1人ずつ回るよう運営の方より声がけがあったが、技術側と人事両方でポスターを聞くことに意味があると感じている。せつかくの貴重な機会により理解を深め会社として採用に取り組むためにも、限られた時間の中でよりプレゼンを聞きたい方を事前に打ち合わせ本イベントに臨んでいた。 仮に全ての学生に企業がいる状態が好ましいのであれば総当たりのプログラムを組んでしまうのも手ではないかと思った。フリーのポスターセッションであれば各社戦略があるのではないかと感じる。 また名札についてタグに関しては長い髪に隠れてしまい、スタッフに髪をめくって見せてください。というシーンがあり、この点もフリーセッションとするのであれば必要性については検討の余地があると感じた。
19	密に交流できる時間が十分に設けられており、学生・企業双方がお互いを知ることのできたイベントだったと感じます。 また、学生さんがしっかりと発表に向けた準備をされており、大学としてもそういった準備や振り返りのサポートをしていただいているとのことで、より有意義な時間に繋がったのではないかと思います。 貴重な機会にお声がけいただき、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
20	コミュニケーション能力に優れた博士学生が多く、また、それぞれが意欲的かつ生き生きと研究に取り組んでいる様子がうかがえ、大変良い印象を受けました。
21	非常に有意義な機会となりました。今後もぜひ参加させていただきたく存じます。

[9] J-window（キャリアデザインセンター担当教員との面談、エントリーシートなどの添削、面接練習）の利用について

- 既に利用している
- 今後利用してみたい
- どちらでもない
- 利用する予定はない

